

## 会議の経過と内容

4月20日午前10時、東京都議事堂で本会議が開かれ、ECAFE 事務局長ロカナサン博士の挨拶、次いで岡崎外務大臣の挨拶の後に日高大使が議長に選ばれ議事日程などを決定し、当日午後から会場を目黒の雅叙園に移して会議を続行、翌21日からただちに部会に入り、30日午前再び本会議を開いて議事内容にかんする報告と勧告とを承認して会議を閉じたのであります。

本会議の初めに当つてソ連代表から、中共および北鮮兩國代表を招請すべしとの提案が行われたが、会議の規約に従つてこの問題は取上げないとの意見が多数を制し、同提案は否決されました。

このほかは、各代表はもちろんソ連代表も非常に協力的で、終始熱心な討議が重ねられました。

最初この会議の議題となつたものは、

1. 地域内の鉱物資源の経済発展への寄與
2. 地域内の鉱物資源の賦存状況と開発生産の状況
3. 地域内の鉱物資源増産の可能性
4. 地域内の地質調査・鉱物資源調査



日本代表團

5. 地域内のこの種調査に必要な技術者の養成
6. 航空機その他新しい技術による調査
7. 地域内鉱物資源の開発に対する國連の技術的援助
8. 地域内の鉱物資源の開発に対する ECAFE 事務局の活動

等であつて、これらについて次々と討議が重ねられ、100に余る結論が得られたのでありますが、それらを要約しますと次の通りであります。

1. 地域内には鉄鉱は非常に多いが、これに対応する製鉄用の粘結炭および高品位炭の量が少ない。

故に低品位炭または褐炭等の利用が必要で、このためには低品位炭の選炭・固結(briquetting)・ガス製造法などの技術的研究を極力進める必要がある。

また、製鉄用だけでなく、火力発電・機関車・精錬・そのほか化学工業用等にも、低品位炭や褐炭を利用する技術的研究を進めねばならない。このため中間試験工場を作るべく、TAA が協力する。

オーストラリアではすでにこの



東京目黒雅叙園會議場

方面の研究が進み、小規模試験も行われているので、近く視察團を派遣して研究することとし、ドイツ・フランスにおける研究例も紹介された。

2. **鉄合金用金属鉍物**にはタングステン・マンガン・チタンなど、地域内では世界的に非常に豊富なものもあるが、それらは主に地域以外への輸出に向けられてきている点が特徴的である。

3. **鉄合金鉍物以外の鉍物**、たとえば銅・鉛・亜鉛・錫などについてはそれぞれ事情を異にするが、一般的に価格の変動が激しく開発が阻害されることがある。

4. **アルミニウムとマグネシウム**とは資源としては豊富であるが、安い電力を得ることが開発の先決問題である。

5. **硫黄**は日本以外には乏しいが、硫化金属の製錬ガス、石炭中の硫黄分等の回収を今後考慮することが望ましい。

6. **地域内鉍物資源の開発の状態**は各国の國狀に應じて著しく違い、とくにそれぞれの國の工業・輸送・技術・貿易・労働・投資・政府の鉍業政策などが開発の諸條件に関連を持つてきているので、事情は非常に複雑であるが、わが國のように過剰人口に悩み、開発してもなお自國の工業原料の需要に應じきれない國はほとんどなく、大部分の國は開発の初期または中期に入らんとしている

段階にあり、技術的または財政的援助を必要とする状態にある。また、開発の問題は國家単位でなく、地域全体の經濟の一環として考えていくこと、資源の有効利用と保存ということ念頭において、低品位鉍と高品位鉍とのバランスを採りつつ開発して行くことが大切である。

7. **地域内の調査**は一・二の例外を除いては一般的に**非常に遅れており**、多くの未調査地域の開発のために、今後組織的の調査が大いに必要となろう。しかし、各國ともこの調査の必要性を痛感し、その実行に取りかかろうと努力しているのは誠に好ましい傾向である。

8. **調査の方法**も、この地域では航空機の利用そのほかの新技术を修得した技術家の不足のために、欧米各國に比べ大変遅れている。

9. **一般に組織的調査**は、多くの経費と時日を要し、企業としては危険を伴うものであるから、どうしても政府がこれを行い、漸次調査の範囲を狭くし精度を高め、民間企業体にこれを移すべきである。

10. かような**調査に従事する技術者の養成**は、現在もつとも必要な問題の一つであつて、このためには大学の教科過程でさらに実地調査の面を重んずること、既存の研究機関、教育機関、あるいは TAA 等の援助によつて技術者に必要な知識の修得をさせる必要がある。

また視察團の交換というようなことも好ましい。

11. **航空機の利用による地質調査**はとくにこの地域では遅れている。

12. このような地域内の**技術的の遅れ**は、現在は地域外または地域内の先進國の援助によつて進められるであろうが、結局



右から 議長 日高大典(日本)  
事務局長 ロカナサン博士(印度)  
事務局鉍物資源課長 リ博士(中國)  
事務局員 ラガジヤカル氏(印度)

は自らの力によるべきものであろう。

13. 埋藏量の表現には常に計算の基準や、計算に際しての仮定条件を明示すべきである。

14. 各国の鉱業法を ECAFE 事務局で編集して、地域内関係各国の参考資料とする。

15. ECAFE 事務局の仲介により既設の研究機関による試験・標本の交換は今後も続けたい。

16. 万国地質学会と密接に連絡を保ちつつ、アジア地域をインド—パキスタン・インドシナおよびマレー半島・東印度列島・太平洋列島・支那大陸の5地域毎に地質図を作る。

17. アジア地質鉱山学会の設立は好ましいが、この決定は今回は行わない。

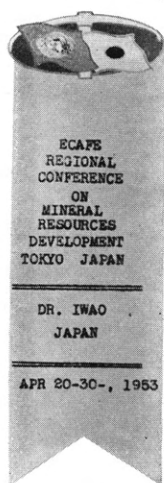
18. 石炭の分類の問題は非常に重要であるか

ら、日本およびインドから提出されたこの問題に対する報告を基として、各国の意見を ECAFE 事務局でとりまとめ、次の会議の議題とすること。

ところで、この会議は ECAFE の機構の中で委員会となっていないために、今後しばしばこの種の会議を開くことが好ましいのにかかわらず何かと不都合な点が多いから、この会議を今後定期的に開くために委員会 (Sub-Committee) とするよう提案され、来るべき 1954 年の産業貿易委員会でこの会議の成果と内容とを検討の上決定することになりました。

なお、この会議の経過・成果・勧告等はなるべく早く印刷発表されるよう各国の希望に従って ECAFE 本会議へ勧告されます。

## 会議の特徴と今後の問題



この会議をどのように見るかということはおそらく各人各様であつて仲々一概には言い難く、またむづかしい問題であると思ひますが、客観的に見て誰でもが認めまた感ずる下記のようないくつかの特徴とも言ふべきものがあります。

1. この会議は戦後初めて日本で開かれた国際会議であること。

わが国では講和條約締結後、次第に諸外國と政治的・経済的の交渉を持つようになり、わが国でも相当数の会議が行われましたが国際会議は実は初めてであります。このような国際的なしかも最初のものとして ECAFE 鉱物資源開発会議という専門的な会議が開かれたことは、われわれ技術家にとってはもちろん、政府当局としても会

議の準備や運営には多くの予期しない困難と経験とを味つたようであります。

2. この会議の内容はほとんど技術的範囲に限られたこと。

このことはいろいろの意味と問題とを含んでいると思われまふ。第一は、今後かような技術的内容を主とする国際会議がしばしば開かれる可能性を示しています。第二は、このような技術専門の会議が、鉱物資源開発という大きな問題に対していかなる役割を今後果すであろうか、また経済的な問題との関連性を今後いかに調整してゆくかということであります。第三は、かような技術専門家を主とする会議であつたので、国際政治的な微妙な相互関係などに煩わされることなく、普通の経済会議に比べてかえつて十分な討論と情報の交換ができたことでもあります。

第四は、このような技術的な会議に対して、日本のいわゆる技術専門家、とくに地質専門家や